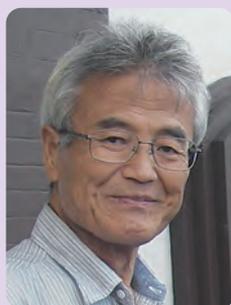


2022年度 年次報告書



ごあいさつ



2022 年度より準備を進めてまいりました ACC21 の「新しいビジョンとミッションそして 2030 年までの中長期計画」が本年 6 月 29 日に理事会・総会を経て決定されました。「人々が温かいつながりのなかで共に生きる、多様な“コミュニティ”に彩られた世界の実現」をビジョンに、「プロフェッショナルな“コーディネーター集団”として、様々なリソース（資金、ひと、知識・情報など）を橋渡しすることで、社会課題に主体的に取り組み、問題を解決できるよう貢献する」ことをミッションといたしました。そしてビジョンの実現に向けて「未来の担い手である若者たちと共にチャレンジする」方針を打ち出しました。詳細についてはウェブサイトをご確認ください。

22 年度の活動報告をお届けするのが遅れましたが、同年度においては 3 つの主要事業で結果を出し成果を挙げることができました。第一に「フィリピンの路上で暮らす若者の自立支援プロジェクト」（本誌 5 頁）、第二に「日韓みらい若者支援事業」（同 10 頁）、第三にアジア・コミュニティ・トラスト（ACT）をはじめとする「公益信託の事務局活動」（同 12 頁）です。最初の 2 事業は規模が限られていますが、確実な結果を生み出し成果を挙げています。そして第三の事業では公益信託に寄せられる寄付者の方たちの思いをアジアの NGO や住民たちに確実に届け、結果を生み出す責任ある助成活動に寄与しました。

こうした活動を進めていた年度でしたが、22 年 2 月 24 日に始まったロシアによるウクライナへの軍事侵攻によりこれまで 9,000 人を超えるウクライナ市民の命が奪われ、兵士も両国を合わせ 22 万人以上の死者と負傷兵を生み出しています。この戦争が今なお続く中、本年 10 月 7 日にはパレスチナのハマス武装勢力とイスラエルの戦闘が始まり、わずか 2 週間で双方の死者数は 7,100 人を超え、パレスチナのガザ地区の 2,360 人（10 月 24 日現在）の子どもが無残にも命を奪われています。これらの犠牲者数の背景には、戦争が始まる前には個々人の日々の生活があり、子どもには夢があり、コミュニティの生活があったはずで

この世界の現実を直視するとき、ACC21 は新しく掲げたビジョンとミッションを遂行するため「平和の構築」が必須だと考えます。今後、「平和」の構築と維持に向けても皆さまと関係団体と共に努力をしてみたいと考えます。未来をつくる ACC21 のミッションに、とくに若い人たちがご参加いただくことを切に願っています。



新しいビジョン・ミッションについてはこちらからご覧ください。

<https://www.acc21.org/vision/>

代表理事 伊藤 道雄

ANNUAL REPORT

2022/4/1 ~ 2023/3/31

目次

- 2 ● 主要事業一覧
- 4 ● フィリピン・ストリートチルドレン支援
- 8 ● 日韓みらい若者支援
- 12 ● 公益信託の事務局活動
- 13 ● 企業との連携による途上国支援
- 14 ● 知識・情報の普及
- 16 ● 日比 NGO 協働推進
- 17 ● 募金型公益信託の調査と情報普及／政策・制度変革のための提言
- 18 ● たくさんの方々に支えていただきました
- 19 ● 決算報告
- 20 ● 編集後記
- 21 ● 団体概要



2023年2月、代表理事の伊藤と職員の本がフィリピン・マニラを訪れ、「Project Bamboo：路上で暮らす若者の自立支援プロジェクト」の一環で前年8月に発足した「若者起業グループ」の会合に参加しました。

ストリートチルドレン支援……➡

フィリピンに約 37 万人いるといわれるストリートチルドレン（路上で暮らす子ども・若者）を SDGs（持続可能な開発目標）の最終年 2030 年までに「ゼロ」にすることを目指すキャンペーンを本格始動しました。また、幼いころから路上で暮らしてきた若者たち一人ひとりの自立を支援する活動では、25 人に研修を提供するとともに、新たに起業を目指す修了生たちで構成された「若者起業グループ」（年度末時点で 16 人が参加）を組織化し、起業に特化した実践的な学び合いの活動を始めました。

➡ p.4

（これらの活動は現地の NGO などと協働して行うものです）



主要事業一覧 Main activities in FY 2022

知識・情報の普及……➡

ACC21 の活動・成果を通じて「アジアの今を“学ぶ”」ためのイベントを 2 回開催したほか、講師派遣や訪問受入を積極的に行い、約 320 人が参加しました。また、今後さらに活動を発展させ、多くの方々に ACC21 やアジアの今を届けていくために、中長期計画や新しいビジョン・ミッションの策定に向けた組織基盤強化に取り組みました。

➡ p.14





◀……日韓みらい若者支援

朝鮮半島にルーツをもつ若者たち（在日コリアン）の参加も得て、日本の若者たちが日韓関係の歴史を学び、韓国の若者たちとの間で、共通の歴史観をもち、創造的な新しい関係をつくっていけるように、2022年度は「在日コリアンを知ろう」を大きなテーマに学習会を4回開催しました。また、少人数でより深い内容について学び合う“語り場”活動を4つのテーマで行ったほか、年間の活動を振り返り、成果を共有するフォーラムを開催しました。これらの活動に日本各地や韓国から150人以上が参加しました。高校生をはじめとした若い参加者も増え、世代間の交流や意見交換が活発に行われました。

▶ p.8

公益信託の事務局活動……▶

ACC21は3つの公益信託の事務局として、アジア各地で実施される助成事業の募集や調査、評価などに取り組んでいます。2022年度は、アジア9か国（フィリピン、インドネシア、カンボジア、インド、スリランカ、ネパール、バングラデシュ、ベトナム、日本）で実施された36事業（総額4,012.1万円）の助成事業を支え、約14,700人に支援を届けました。

▶ p.12



◀……インドネシアでの企業連携

2017年から、パナソニックとインドネシアの現地NGOと連携し、インドネシア・西カリマンタンでの太陽光発電を活用した生計向上のモデルづくりに取り組んでいます。現地住民・ダヤク族の人々によって有機肥料の生産や土壌の改良、モリンガの栽培・加工や天然ハチミツの採取・加工が続けられ、販路拡大のための取り組みも行われました。

▶ p.13



フィリピン・ストリートチルドレン支援プログラム



「Project Bamboo：路上で暮らす若者の自立支援プロジェクト」の半年間の研修を終え、修了式を迎えた若者たち（2023年3月）

フィリピンには、路上で暮らす子どもが約37万人いると言われています。“ストリートチルドレン”とも呼ばれますが、その暮らしは様々です。例えば、昼間は路上で過ごし夜にはスラム等にある家に帰る子どもたち。路上で家族と共に寝泊まりをする子どもたち。親からの虐待などを理由に家族の元を離れ、子どもだけで生活する子どもたち。

親の多くは農村で食べられなくなり都会に出てきた人々ですが、技能はなく、日雇いの仕事などで生活をしのいでいます。子どもたちは家族や自分自身が生き抜くために、路上で物売りや物乞いをします。空腹感を紛らわすため、残飯を漁ったり、中毒性のあるシンナーを吸うこともあり、ま

さに人間の尊厳が踏みにじられ、社会の片隅に追いやられています。

ACC21は、全ての子どもたちの人権が守られ、路上生活を強いられることのない未来のために、2つの活動に取り組んでいます。「Project Bamboo：路上で暮らす若者の自立支援プロジェクト」では、一人ひとりの若者が自立し、路上の生活を抜け出せるように支援しています。また、「“ストリートチルドレンZERO”キャンペーン」を通じては、日本とフィリピンの様々なNGOや政府機関、企業などと連携して広く両国の社会にこの問題を訴えかけながら、現地での様々な取り組みを支援しています。

事業名

Project Bamboo：フィリピンの路上で暮らす若者の自立支援プロジェクト

活動と成果

- 路上で暮らす若者 25 人が自立のための職業技術や知識を習得しました。
- 起業をめざす若者たち 16 人が相互に学び合う「若者起業グループ」が発足しました。

このプロジェクトは、路上で暮らす若者に自立のための技術や知識を学ぶ機会を提供することを目的に、現地パートナー団体のチャイルドホープ・フィリピン財団と共同で実施しています。2022 年度は、25 人の若者が研修を修了し、就職や自営のための職業技術や知識を身につけました。事業開始から 2022 年度末までに支援した若者の数は 121 人に及びます。



若者起業グループの研修で、それぞれのビジネスの課題や対応策について議論する若者たち

25 人の若者が起業・就職のための知識・技術を習得

若者たちは、半年間の研修期間で、日常の様々な課題に対処するための考え方、適切な家計管理や貯蓄の方法、起業のための戦略の立て方、自己研さんの大切さなどを学んだほか、ホテル・レストランでの就職に役立つ職業技術、起業に役立つ生計技術（軽食の調理や生活用品の製造など）を学びました。また、小規模ビジネスを開始・運営するための支援金を延べ 18 人に提供しました。

若者起業グループの発足

2022 年 8 月には、過去の研修修了生のうち、小規模ビジネスを始めた、もしくは起業する意欲がある若者で構成された「若者起業グループ」を組織化しました（2023 年 3 月時点で 16 人が参加）。このグループはビジネスの起業や運営・管理に必要な知識・技術を学ぶための研修・ワークショップや、個々のビジネスについての助言をすることで、メンバー間の経験共有や相互学習を促すことを目指しています。2022 年度内に、研修活動を 6 回実施しました。

事業の目的	路上で暮らす若者に自立のための技術や知識を学ぶ機会を提供する。		
活動地域	フィリピン・マニラ首都圏	受益者	路上で暮らす若者（年間約 40 人）
パートナー団体	チャイルドホープ・フィリピン財団	事業期間	2018 年 7 月～継続中

2022 年度の事業実施にあたり、日本労働組合総連合会「連合・愛のキャンパ」中央助成、(公財)大阪コミュニティ財団「ストリートチルドレン等救済基金」、(独)国際協力機構「世界の人びとのための JICA 基金」、生活協同組合コープみらい「子ども・子育て支援基金」からのご支援、個人・団体の皆さまからのご寄付をいただきました（総額 5,557,827 円）。御礼を申し上げます。

事業名

フィリピンの“ストリートチルドレン ZERO”キャンペーン

活動と成果

- “ストリートチルドレン ZERO”キャンペーンの趣意書を公開しました。
- 2023年4月の「ストリートチルドレンのための国際デー」に向けた準備活動を行いました。

このキャンペーンは、フィリピン・マニラ首都圏のストリートチルドレンを2030年までに“ゼロ”にすることを目標に、日本とフィリピンの市民の意識啓発や協力の輪づくりなどに取り組むものです。共同事業実施団体である（一社）アジア宗教者平和会議東京（ACRP 東京）と定期的に会合を持ちながら、次の活動に取り組みました。

キャンペーン趣意書の公開

フィリピンの路上の子どもたちが置かれている状況や、その状況をなくすためにこのキャンペーンの方針などについて取りまとめた趣意書を作成し、ホームページにて公開しました。

詳しくは、下記 URL から PDF 版をご覧ください。

<https://acc21.org/pdf/sczero-prospectus2022.pdf>



「路上の子どもの保護と福祉に関する小委員会」との会合のようす（2023年2月、ACC21 伊藤（左から4番目）、辻本（同3番目）が参加）

フィリピンの関係団体の訪問

2023年2月にフィリピンを訪れ、フィリピンのストリートチルドレン支援に関わる複数の現地 NGO 団体を訪問し、各団体の取り組みについてヒアリングをしました。また、ストリートチルドレン支援に関わる現地の政府機関と NGO の協議体（「路上の子どもの保護と福祉に関する小委員会」）の会合に参加し、情報収集と関係構築を行いました。

2023年4月の「ストリートチルドレンのための国際デー」に向けた準備活動

2023年4月12日の「ストリートチルドレンのための国際デー」に合わせ、本キャンペーンのキックオフ・フォーラムと期間限定の募金活動に取り組むことを決定し、準備活動を行いました。

2023年4月15日に開催されたキックオフ・フォーラム「増えているフィリピンのストリートチルドレン、ZEROにできるのか？」のアーカイブ動画を YouTube からご覧いただけます。

<https://www.youtube.com/watch?v=C0cBrwwz6Bc>



事業の目的	フィリピン・マニラ首都圏のストリートチルドレンを2030年までに“ゼロ”にすることに向け、日本とフィリピンで意識啓発や関係構築を行う		
活動地域	フィリピン・マニラ首都圏、日本	受益者	フィリピンの路上で暮らす子どもたち
パートナー団体	（一社）アジア宗教者平和会議東京	事業期間	2021年10月～継続中

モニタリング報告

2023年2月、代表理事の伊藤と共に、約3年半ぶりにフィリピン・マニラ首都圏を訪れました。その中で路上の若者たちからヒアリングをしましたのでご報告します。
(報告：辻本紀子)

私たちはフィリピンの路上の若者たちが就職や起業で自立できるよう支援 (p.5 参照) していますが、特にコロナ禍の数期間は就職が難しい期間が続きました。ここ数年力を入れてきた起業支援の成果をはかるため、若者たちの小規模ビジネスの現場を訪れました。

エリックさん (右写真) は、マニラ市内の人通りの多い露店街で、家族と共にマスクや雑貨を販売するビジネスを行っています。わずか300ペソ (約750円) 程度を元手にビジネスを始め、少しずつ規模を拡大した結果、多い月には35万ペソ (約87.5万円) の売上をあげるまでになりました。そのおかげでスラム地区にある自分の家を改修することもできました。しかし、エリックさんは現状に満足はしていません。クリスマスなどのイベント・シーズンにはたくさんの商品が売れる一方、客足が遠のく月もあります。そのため、「季節にかかわらず安定的に収入が得られるような工夫をしていきたい。それが叶ったらお金を貯めて大学に行きたい」と、今後の方針や将来の希望を話してくれました。

一方、ルイサさん (下写真) は、母親と共に路上で飲料や食品、雑貨を販売しています。1日の売上は千~2千ペソ (約2.5千~5千円) と決して大きくありません。それでも収入が得られるようになったことで、2022年12月に家を借り、路上生活を抜け出して、屋根の下で生活できるようになりました。

「つい最近まで近くの路上で寝泊まりしていましたが、ビジネスのおかげで部屋で生活できるようになり、本当に良かつ



マスクや豚の貯金箱など、さまざまな商品を販売するエリックさん (奥、手前は辻本)

たです。もっと収入を増やして、勉強もまた始めたいです」と話していました。

二人ともビジネスを安定して経営していくために、「若者起業グループ」に参加し、意欲的に学んでいます。このように、学んだ知識や技術を生かして努力を重ね、生活が向上しているさまを知ることは、事業担当者として最も嬉しい瞬間のひとつです。今回の訪問を通じて、たくさんの若者が事業を通じて様々な知識や経験、そして何より「自分には、生活や人生をより良くしていく力がある」という自信を身につけられていることがわかりました。一人でも多くの若者が、この二人のように路上を抜け出し自立できるよう、より実のある活動に取り組んでいきます。



路上でスナックや飲み物などを販売するルイサさん (右) と母 (左)



ルイサさんの店舗で話を聞く辻本 (左から2番目) と伊藤代表理事 (同3番目)

日韓みらい若者支援



2023年4月22日に開催したフォーラムでの対談の様子

この事業では、繰り返し起きる日本と韓国の対立を乗り越えるため、朝鮮半島（韓国・北朝鮮）にルーツをもつ若者たち（在日コリアン）の参加も得て、日本の若者たちが日韓の歴史を学び、韓国の若者たちとの間で共通の歴史観を持てるようになり、創造的な新しい関係を志向する若い人材が育つのを支援しています。

若者の参加、他の日韓関係団体や学生団体とのつながりが増加

2022年度は、「在日コリアンを知ろう」を大テーマとした学習会を4回、歴史教科書、韓国の市民活動とジェンダー、みんなのモヤモヤについての“語り場”活動(4グルー

プ、各1～3回)とフォーラムを1回開催しました。また、2019～21年度の活動をまとめた報告書を発行しました。

日本各地、韓国から150人以上が参加

これまで接点のなかった学生グループや韓国に関心をもつ人たち、InstagramなどのSNSを活用し、情報発信とコミュニケーションの頻度を高めました。そして、韓国に留学中の学生を講師にした学習会や学生団体と共催する語り場を実施した結果、高校生を含め若者の参加率が増え、様々な世代の参加者との交流と意見交換を通じて、新しい視点を得る機会を提供することができました。

開催報告：フォーラム「元Jリーガー安英学さんと語る・日韓の若者と私たちが描く未来」

2022年度の学習会と“語り場”活動の成果を共有し、交流する場として、2023年4月22日にフォーラムを開催し、会場とオンライン合わせて45人が参加しました。



会場とオンライン参加の皆さんとの集合写真



学習会参加者による発表の様子

元Jリーガー安英学さんを迎えて

安英学氏による基調講演では、高校時代にサッカーを一度やめてその後復帰した経緯や、Jリーグや韓国リーグで活躍され、朝鮮民主主義人民共和国の代表選手としてワールドカップに出場されたときのことなどについてお話いただきました。

その後「安英学さんを囲む若者との対談」を行い、若者を代表してカウンゼンマラさんから「夢を叶えるための原動力」、文美友さんから「朝鮮籍をもつ安氏にとってのルーツ」、赤木亮太さんから「子どもたちによく話していること」について質問があり、安氏がエピソードを交えながら答えました。

学習会や“語り場”の参加者からの発表

2022年度に実施した学習会や“語り場”の参加者からは、それぞれの活動からの学びを発表していただきました。

学習会「在日コリアン高校生・大学生・院生への差別」に参加した青木有加さんは、「学生たちが嫌な思いをすることを考

慮してなかなか調査を実施できなかったが、実態を明らかにするために調査に踏み切ったことを初めて知った。このアンケートは、今まで明らかにならなかったことについて調べた貴重なものだと思う」と述べました。

また、語り場「日韓の歴史教科書の比較から見る慰安婦問題」に参加した李眞さんは、「『慰安婦』問題は過去に女性にあった理不尽な問題というだけでなく、戦争中の弱者の立場に置かれた人々の人権問題でもあり、現代においては、日韓の若者の歴史認識の問題にもつながることを学んだ」と話しました。

日韓関係団体の紹介

このほかに、フォーラムでは、日韓関係団体2団体を招き、活動を紹介していただきました。

和寧文化社の丁由爾氏は、東大阪市にあるアートカフェ「喫茶美術館」を拠点に「尹東住とわたしたち」という集いや韓国の詩人たちとの交流を行っているほか、海外講演や市民運動にも関わっていることを紹介しました。

(一社)あおい文化交流研究所の青嶋氏からは団体の設立からの経緯が紹介されました。また、連携先の朝鮮文化財ワークショップ実行委員会・大澤氏は、文化財の海外流出問題の事例や、対馬で行っているワークショップと若者の声を紹介しました。

2022年度の学びを振り返り、日韓関係の未来のために私たちができることについて考え、交流する貴重な機会となりました。



ニュースで知れない日韓関係や団体活動を聞きたいと参加した人

事業名

日韓みらい若者支援事業

活動と成果

- 年間の参加者約150人の半数が若者世代に。多世代間の意見交換、交流が実現しました。
- 韓国の文化だけではなく、日韓の問題や歴史を真剣に学ぼうとしている若者たちの間の出会いが広がりました。



第1回学習会の参加者と

2022年度は「在日コリアンを知ろう」を大テーマに4回の学習会を開催実施

特別学習会では、韓国に留学中（当時）の篠田有希氏と曹基安氏を講師に迎え、留学の動機、留学で得た経験・気づき、芽生えた問題意識などについて話を聞きました。

第1回学習会は、「韓国人・朝鮮人生徒学生の嫌がらせ体験に関する意識調査」を実施した朝鮮奨学会の権清志氏を講師に迎えました。ネットやデモによる嫌がらせ体験をもつ人が7割以上いるなど、事前に調査結果を読んだ学生2人がコメントし、参加者は真剣に耳を傾けました。

第2回は、大阪にあるコリア NGO センターの金和子氏より、同団体が行う「コリアタウン人権研修プログラム」に参加した学

生や教師の反応、課題などについて話を聞きました。

第3回は、日本人・在日コリアン・コリアンの高校生が参加する川崎・富川^{アクション}高校生フォーラム「ハナ」の風巻浩氏から、交流の様子や「アジア市民」として生きる重要性をお話いただきました。

4 グループの語り場に計 57 人が参加

2つの学生団体との共催で日韓の歴史教科書における日本軍「慰安婦」に関する叙述の比較と議論を行いました。その他、韓国の市民活動とジェンダー、日韓の「モヤモヤ」をテーマにしたグループ活動を実施しました。

事業の目的	朝鮮半島と日本にルーツをもつ若者たちが日韓の歴史を直視し、2国間の共通の歴史観を育み、両国関係の未来を志向する若い人材の育成を行う。若者間のネットワークづくりを支援。		
活動地域	日本	受益者	若者、学生、一般市民 計 153 人
パートナー団体	(特活) AsiaCommons 亜洲市民之道	事業期間	2019 年 11 月～現在

本事業の実施にあたり、2022年度は、(一財) MRA ハウス、(特活) アーユス仏教国際協力ネットワーク『街の灯』支援事業（以上、本事業の活動）、(一財) 大竹財団（小冊子発行と普及）からの助成金と、市民の皆さまからのご寄付をいただきました（総額 3,353,044 円）。心から御礼を申し上げます。

参加者の声 (所属は開催当時のもの)



「今、目を向けるべきことは、自分の中にある正義から少し離れて、構造的に働く暴力」

坂本 Sunny さん (大学院生)

修士課程で移民研究をしています。日本でヘイトスピーチをはじめとする差別問題を議論する際“皆で思いやりをもって行動しよう”、と優しい結論で議論を片づけてしまいがちです。しかし“マイクロアグレッション”^{*}と呼ばれる無意識に起こす差別は、それぞれの思いやりと正義感が別の方向を向いていることから生じるのではないのでしょうか。自分の中にある正義から少し離れて、構造的に働く暴力に、目を向ける必要があります。

^{*}※自覚がなく、無意識な偏見や差別によって悪意なく誰かを傷つけること。



「両国間に問題はあっても人々の距離が近づくといいなと思っています」

(匿名)

書籍「在日韓国人になる」を読み、関心を持ったので祖父に聞いたところ、近くに在日コリアンの集住地区があったと聞きました。小学校の時に韓国語が話せるようになり、留学先のカナダで韓国人の友達ができました。仲良くなって、日韓の夫婦間でもタブーの話題があると聞いたことがあります。日韓の政治上の問題をできるだけ早く解決することが一番望ましいですが、両国間に問題はあっても人々の距離が近づくといいなと思っています。

2022 年度に開催した学習会、“語り場”活動

	日時、会場	タイトル	講師・リソースパーソン、所属等 (敬称略、開催当時)	対象／協力団体	参加人数
学習会	2022/11/25 オンライン	特別学習会「韓国での留学生活ってどうですか?～留学中の学生に聞くオンライン座談会～」	篠田有希 高麗大学経営学部2年 曹基安 ソウル国立大学工学部建設環境工学科 修士課程1年	大学生、高校生、社会人	8人
	2022/12/3 オンライン	第1回学習会「在日コリアン高校生・大学生・院生への差別：アンケート結果から見えるもの」	權清志 (公財) 朝鮮奨学会 代表理事	大学生、大学院生、社会人	17人
	2022/12/21 オンライン	第2回学習会「大阪コリアタウンから考える学びと共生」	金和子 (特活) コリア NGO センター 人権研修担当	大学生、大学院生、社会人	15人
	2023/3/11 オンライン	第3回学習会「『アジア市民』として共に生きる～日韓在日高校生主体の活動、川崎・富川高校生フォーラム『ハナ』～」	風巻浩 川崎・富川高校生フォーラム「ハナ」のサポーター 共同代表、かながわ開発教育センター理事	高校生、大学生、社会人	11人
“語り場”活動	2022/6/11、6/18、7/2 オンライン	“語り場”活動①「日韓の教科書を読み比べる」	上山由里香 韓国近現代史研究者	大学生／日韓学生会議	17人
	2022/8/9 オンライン	“語り場”活動②「日韓の歴史教科書の比較から見る慰安婦問題」	上山由里香 韓国近現代史研究者	大学生／日韓学生フォーラム	17人
	2022/12/10、12/17、2023/1/14 オンライン	“語り場”活動③「記事『イルダ』を通して韓国の市民活動とジェンダーを考える」	麻生水緒 (特活) AsiaCommons 亞洲市民之道代表、日韓みらい若者支援事業運営委員	大学生、社会人、NPO 関係者、大学教員	11人
	2023/3/18 2023/4/15 オンライン	“語り場”活動④「みんなのモヤモヤを語ろう」	緒方義広 (第1回) 福岡大学人文学部 東アジア地域言語学科准教授 斐潤哲 (第2回) (特活) パノラマ	大学生、社会人、大学教員	12人
フォーラム	2023/4/22 東京都／オンライン	「元」リーガー安英学さんと語る・日韓の若者と私たちが描く未来」	安英学 ジュニスターサッカースクール代表	高校生、大学生、NGO 団体職員、教員	45人

公益信託の事務局活動



ACT 助成事業のようす（上：東部インドネシアで海藻養殖業者の技術・組織力向上に取り組む事業の参加者たち／左：富士山の登山者にアンケート調査・ごみ箱設置実験活動を行うインドネシアからの留学生。「アジア留学生インターン受入れ助成プログラム」[※]）

※アジア出身の留学生が日本の NGO/NPO でインターンを体験する活動に助成する ACT 内のプログラム

活動と成果

- 3つの公益信託を合わせて36件、4,012万1,000円の助成活動を事務局として支えました。
- 上記の助成活動を通じて、アジアの人々約14,700人が受益しました。

ACC21は、「アジア・コミュニティ・トラスト（ACT）」「今井記念海外協力基金」「川上甚蔵記念国際文化教育振興基金」という3つの公益信託の事務局を受託しています。公益信託とは、社会貢献を志す個人や法人からのご寄付を信託銀行等が管理・運用し、寄付者の立場に立って公益活動を行う仕組みです。

ACC21はアジアの途上国での長年の経験や知見を活かして、アジア各国で実施される助成事業の報告書の取り付け、助成団体との連絡・調整、新規事業の募集・調査、受託銀行との連絡・

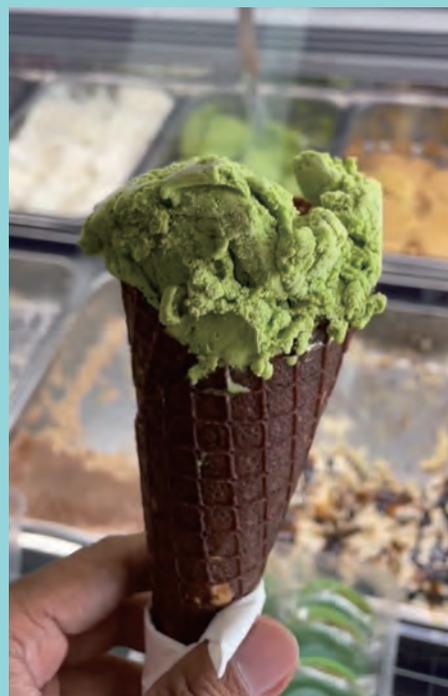
調整などを行い、質の高い助成活動を支えました。

日本を含むアジアの現地 NGO の事業に助成する「アジア・コミュニティ・トラスト（ACT）」では、2022年度はコロナ禍で縮小されていた各国での活動が再開され、また、新しい特別基金が設定されたことから、年間助成額が3千円万円を超えました。

3つの公益信託を合わせて、フィリピン、インドネシア、カンボジア、インド、スリランカ、ネパール、バングラデシュ、ベトナム、日本の9カ国で36事業が実施され、事業を通じて約14,700人が受益しました。

ACC21 が事務局をつとめる公益信託	2022 年度助成件数／総額（決定額）／実施国
アジア・コミュニティ・トラスト	28 件／3,282.1 万円／ 6 か国（フィリピン、インドネシア、カンボジア、インド、スリランカ、日本）
今井記念海外協力基金	7 件／650 万円／5 か国 （フィリピン、カンボジア、ネパール、バングラデシュ、ベトナム）
川上甚蔵記念国際文化教育振興基金	1 件、80 万円、1 か国（フィリピン）

企業との連携による途上国支援



断食月終了記念バック（ハチミツ、モリンガ）とモリンガのジェラート

活動と成果

- ダヤク族の人々によるモリンガ、ハチミツを栽培／採取、加工の活動が続けられました。
- ディアン・デサ財団（YDD）はモリンガを使ったジェラートの開発協力などを行い、販路拡大に取り組んでいます。

第2フェーズ「西カリマンタン辺境地域での太陽光発電電気を活用した生計開発モデルの開発」事業が2021年度末に終了した後も、現地では、有機肥料の生産と土壌改良、モリンガの栽培・加工、天然ハチミツの採取と加工の活動が続けられています。

2022年度は、第2フェーズのフォローアップ活動として、ACC21は現地での栽培・加工、販売、YDD本部内につくられたビジネス・ユニットを通じた製品の市場開拓・販売（オンライン販売、卸売り、小売り）活動の進捗状況について、現地パー

トナーのYDDとの間で定期的に確認し、パナソニック関係者と情報共有と連絡調整を行う活動を継続しました。

事業地ではコロナ禍を経て、住民による天然ハチミツの採取活動が再開されました。その一方で、天候不順により、モリンガの生育状況が影響を受けています。ACC21では2023年度も、パナソニック、YDDと連携し、現地での栽培・生育状況の改善、原材料の安定供給、販路拡大等の課題に取り組んでいきます。

事業の目的	西カリマンタン州の無電化／半電化地域で太陽光発電を活用した生計向上のモデルづくりをしています。		
活動地域	インドネシア・西カリマンタン州 セミタウ副県（12村）、 スハイド副県（11村）	受益者	住民約5,000世帯ほか
パートナー団体	パナソニック、 ディアン・デサ財団（Yayasan Dian Desa Baru、略称YDD）	事業期間	2017年12月～2023年3月 （第2フェーズのフォローアップ）

知識・情報の普及



Panasonic NGO/NPO サポートファンド for SDGs 贈呈式に出席した鈴木副代表理事（2023年1月）

活動と成果

- イベント開催や講師派遣、訪問受入を通じ、延べ約 320 人に ACC21 の活動を知っていただきました。
- 中長期計画、新しいビジョン、ミッションの策定など、組織基盤強化に取り組みました。

2022 年度はオンラインイベント「アジアの今を“学ぶ旅”シリーズ」（2 回、右ページ上参照）の開催、大学での講義や外部セミナー等への講師派遣（6 回）を行ったほか、学生の訪問（1 組）を受け入れ、アジアの現状や ACC21 の活動について説明しました。

ウェブサイトや SNS（Facebook、Twitter）、メールマガジンでの定期的な情報発信や年次報告書の発行を通じて、支援者や一般の方々への情報提供と活動への参加呼びかけを行いました。

SDGs と知識・情報普及の推進に向けた広報、ファンドレイジング戦略の策定

ACC21 は 2005 年の設立以来、アジア各国の現地 NGO との幅広いネットワークという強みを活かし、様々な活動に取り組

んできました。今後も持続的に組織を運営し、活動を発展させていくためには、事業承継を見据えた組織基盤づくりに取り組むことが必要だと考え、2021 年度から組織診断や課題の分析などの議論を進めてきました。2022 年度は、「中長期計画」（2023～30 年度）の策定に向けて、外部専門家の協力を得ながら事務局内で検討を重ね、その後「中長期計画策定委員会」で議論を行いました。そして 2023 年 6 月末の理事会で、「中長期計画」と新しいビジョン・ミッションが承認されました。

この取り組みを実施するにあたり、「Panasonic NPO/NGO サポートファンド for SDGs」の海外助成プログラム（2022 年度：2023 年 1 月～12 月）から助成を受けました。2023 年度は、新しいビジョン・ミッションのもと、広報・ファンドレイジング施策を含む「中長期計画」の実行に取り組みます。

フィリピンの路上の若者と語ろう! ～“Project Bamboo” しなやかに未来を切り拓く～

フィリピン・マニラの路上で自立をめざす若者たちと対話し、彼らの過去と今を聴き、これからを考えました。



このイベントのために、フィリピンから4人の若者たち（「自立支援プロジェクト」(p.5 参照)の修了生)が参加しました。日本の参加者からは「どのような子ども時代を過ごしたか」「これまでにどんな困難があったか」といった質問が投げかけられ、若者たちからは、幼い頃から路上での生活を強いられながら将来のために強い思いで真剣に学んできたことなどが報告されました。

詳しいイベントレポートはこちら：

<https://www.acc21.org/eventreport20220913/>



ミャンマーで、インドで、社会変革に挑む ～ ACC21 から飛び立った 社会起業家たちの活躍～

過去に ACC21 の人材育成事業に参加し、現在はアジアで活躍するお二人から、取り組んでいる活動への思いや苦勞などをお聞きしました。



ACC21は、「アジア NGO リーダー塾 / 社会起業家育成塾」(2009～18年)を通じて、アジアで NGO や社会的企業を立ち上げようとする人たち 66人を輩出しました。多方面で活躍する修了生の中から、イベントにはミャンマーでソーシャルビジネスを運営する黒柳英哲さんと、インドで教育支援に取り組む水流早貴さんをお招きしました。塾での学びが現在の活躍に活かされている様子を知ることができました。

詳しいイベントレポートはこちら：

<https://www.acc21.org/eventreport20221210/>



広報・啓発活動

	日時、会場	タイトル	講師・リソースパーソン名、役職	参加人数
イベント	2022/9/13 オンライン	「フィリピンの路上の若者と語ろう! ～“Project Bamboo” しなやかに未来を切り拓く～」 アジアの現場から“学ぶ旅”シリーズ #2	マニラの路上で暮らす若者 4人、 ハーバート・Q・カルピオ 現地 NGO・チャイルドホープ事務局長	16人
	2022/12/10 オンライン	「ミャンマーで、インドで、社会変革に挑む ～ ACC21 から飛び立った社会起業家たちの活躍～」 アジアの現場から“学ぶ旅”シリーズ #3	黒柳英哲 リンクルージョン(株)代表取締役、 ACC21「アジア NGO リーダー塾」2010年度修了生 水流早貴 (特活) 結び手 共同代表、 ACC21「アジア社会起業家育成塾」2018年度修了生	21人
講師派遣	2022/5/31 東京都	神田外語学院での授業 「Project Bamboo：路上で暮らす若者の自立支援プロジェクト」	辻本紀子 ACC21 広報・フィリピン事業担当	1人
	2022/10/11 東京都	中央大学経済学部「国際開発論」公開授業 「フィリピンのストリートチルドレン ZERO に向けて—ACC21 の挑戦—」	辻本紀子 ACC21 広報・フィリピン事業担当	100人
	2022/10/26 東京都、 オンライン	生活協同組合コープみらい 学習交流会 「フィリピンの路上で暮らす若者の生の声を聴こう!」	伊藤道雄 ACC21 代表理事 鈴木真里 ACC21 副代表理事・事務局長 辻本紀子 ACC21 広報・フィリピン事業担当	68人
	2022/10/31 東京都	亜細亜大学国際関係学部「インターナショナル・フォーラム」授業 「What drives you? ～アジアの現場と日本をつなぐ国際協力 NGO の役割、存在意義とは～」	鈴木真里 ACC21 副代表理事・事務局長	70人
	2023/1/11 オンライン	日比 NGO ネットワーク(JPN) 学習会「ストリートチルドレンのリアルを知る」	辻本紀子 ACC21 広報・フィリピン事業担当	26人
	2023/1/24 オンライン	アユース仏教国際協力ネットワーク『街の灯』トーク 「なぜ、いまコリアに光を当てるのか」	鈴木真里 ACC21 副代表理事・事務局長	15人

(講師派遣の参加人数はおおよその数です)

にっぴ 日比NGO協働推進



「ゴミ山で笑顔で生きる人々」をテーマとした学習会の様子

活動と成果

- 若者や学生向けの学習会全 5 回を開催！小学生や高校生も含めた 115 人が参加しました。
- Instagram のアカウントを開設し、これまでは届かなかった層とのつながりが持てました。

ACC21 が事務局をつとめる日比 NGO ネットワーク (JPN) は設立 17 周年を迎えました。「フィリピンの人々との協力活動を行う日本の市民組織 (NGO) 間の相互理解と協力関係を促進し、日本とフィリピンの NGO 間の協働を推進することで、両国市民社会の創造的な関係構築に寄与する」ことをめざし活動しています。

2022 年度の主な活動は、若者と学生を対象とした学習会シリーズ「現場から学ぶ国際協力～はじめの一步から行動に移すまで～」(全 5 回) の開催。JPN の会員団体から講師を招き、

団体の活動紹介や国際協力の現場についてお話を聞き、参加者間で意見交換を行いました。大学生だけではなく、小学生や高校生を含む多くの学生の参加があり、延べ合計 115 人が参加しました。連続で開催する形式をとり、参加者間のつながりも生まれています。

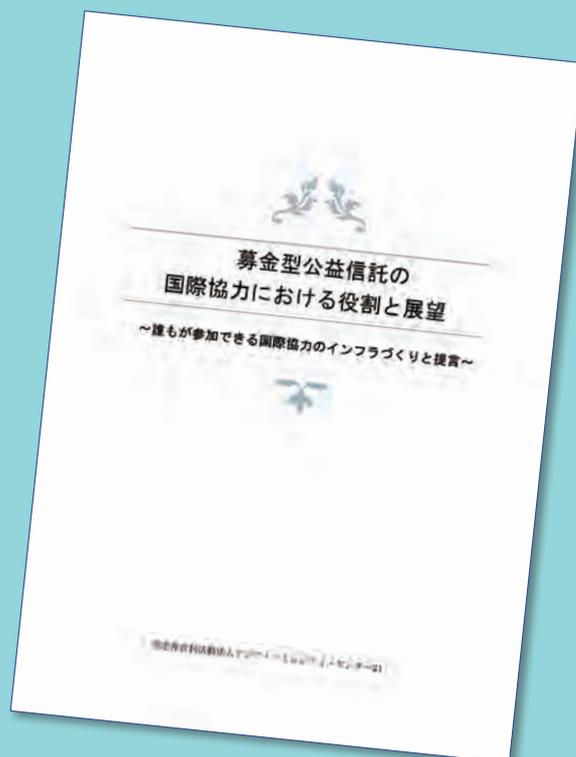
広報面では、ウェブサイトの日本語版の更新と英語版の作成を行い、SNS の Instagram のアカウントを開設し、JPN の活動や会員団体の紹介についての情報発信に努めました。

学習会シリーズ「現場から学ぶ国際協力～はじめの一步から行動に移すまで～」

日時/会場	タイトル	講師、役職 (敬称略)	参加人数
2022/9/6 オンライン	国際協力って何？ ～バイオニアから学ぶ現場のリアル～	横田宗 (特活) アクション 代表 野田沙良 (特活) アクセス-共生社会をめざす地球市民の会 事務局長	16 人
2022/10/4 オンライン	ゴミ山で笑顔で生きる人々～貧困とは何か？ 幸せとは何か？～ 現地インターン生の体験報告付き	内山順子 (特活) DAREDEMO HERO 理事長 YUNA 大学生インターン	51 人
2022/11/16 オンライン	私たちの豊かさの裏側にある環境問題	後藤順久 (特活) イカオ・アコ 理事長 小池絢子 (特活) WE21 ジャパン 民際協力室/事務局次長	11 人
2023/1/11 オンライン	ストリートチルドレンのリアルを知る	辻本紀子 (特活) アジア・コミュニティ・センター 21 広報/事業担当 清水匡 (特活) 国境なき子どもたち理事・広報/人道写真家	28 人
2023/2/22 オンライン	今からはじめる国際協力 ～自ら踏み出す第一歩～	吉永幸子 (特活) LOOB JAPAN 理事長 (共同代表) / 国内マネージャー	9 人

募金型公益信託の調査と情報普及

1. 公益信託受託件数の減少要因の分析
2. 公益信託制度における募金型公益信託の位置づけと特徴と実績と可能性の分析
3. 「新公益信託法」における課題と提言
4. 国際協力・国際交流促進を目的とする募金型の公益信託が増加するための、望ましい条件と環境



調査報告書は ACC21 のウェブサイト
ダウンロード可。印刷物も配布しています

活動と成果

- 受託者へのアンケート調査、財団、専門家、出捐者等へのヒアリングを行いました。
- 募金型公益信託の可能性分析を行い、「新公益信託法」における課題と提言をまとめました。

日本の公益信託（2021 年度末 393 件）は 2022 年 3 月末までに総額 968 億円の助成金を給付しましたが、受託件数・残高ともに減少の一途をたどっています。こうしたなか公益信託法制が見直され、来年にも国会に改正案が提出される見通しです。

ACC21 では、公益信託の実務者の知見を持ち寄り、考究することで同制度の改善、発展に寄与し、日本の民間による国際貢献を促す公益信託になることを期待し、調査を行いました。また、募金型公益信託についての動画（日・英）を制作し（公財）トラスト未来フォーラムのウェブサイトを通じ普及しました。

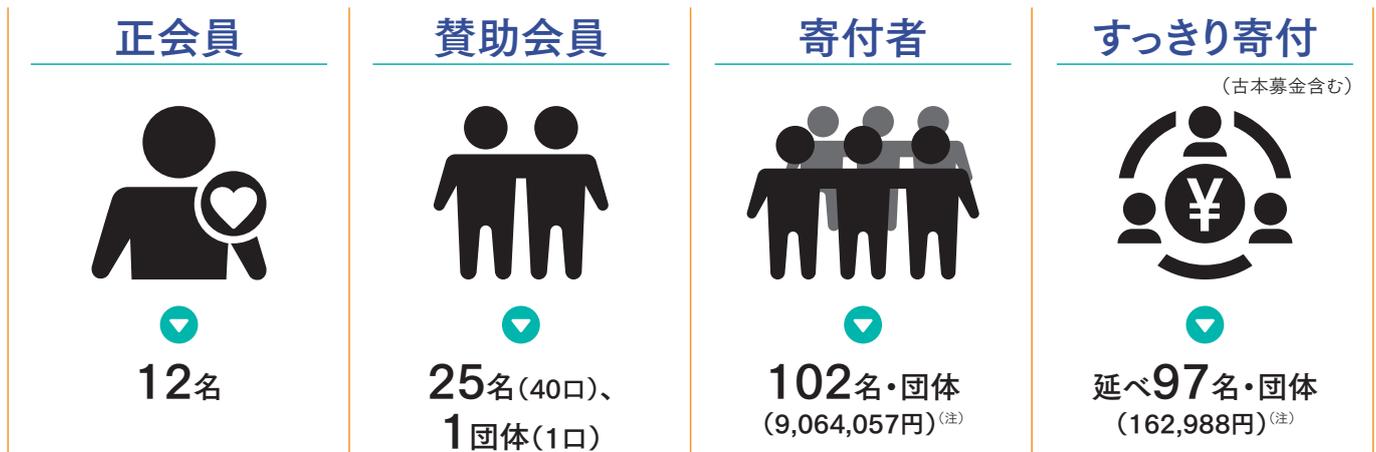
事業名	調査事業「募金型公益信託の国際協力における役割と展望～誰もが参加できる国際協力のインフラづくりと提言～」と募金型公益信託についての情報普及
事業の目的	募金型の公益信託が増加するための望ましい条件、環境、アプローチの検証と、「新公益信託法」に対する提言
事業期間	2022 年 4 月～ 2023 年 3 月
助成機関	（公財）トラスト未来フォーラム

政策・制度変革のための提言

下記のネットワーク・団体のメンバーとして、それぞれの政策提言活動に参加しました。

- ・（特活）国際協力 NGO センター（JANIC） 正会員
- ・日比 NGO ネットワーク（JPN） 正会員
- ・グローバル連帯税フォーラム 正会員
- ・NGO-労働組合国際協働フォーラム 会員（「広報タスクチーム」への参加）
- ・認定 NPO 法人振興会 会員

たくさんの方に支えていただきました



(注) 詳しくは p.19 右下の注記をご覧ください。

助成金・基金

(特活) アーユス仏教国際協力ネットワーク「『街の灯』支援事業」	(一財) MRA ハウス	(公財) 大阪コミュニティ財団「ストリートチルドレン等救済基金」
(一財) 大竹財団	(独) 国際協力機構「世界の人びとのための JICA 基金」	生活協同組合コープみらい「子ども・子育て支援基金」
(公財) トラスト未来フォーラム	日本労働組合総連合会「連合・愛のカンパ」中央助成	Panasonic NPO/NGO サポートファンド for SDGs 海外助成プログラム

※このほか、(一財) 日本国際協力システムより、2023 年度に実施する事業に対して、2022 年度内に助成金を受領しました。

寄付者の声

古賀 摩希子さま

(生活協同組合コープみらい* 副理事長)

今年度、国内外の子ども達の健全な成長を願うコープみらいの組合員から「はがき・切手回収キャンペーン」を通じて2万7000件を超える寄付が寄せられました。

その寄付をフィリピンの路上で生活せざるを得ない子ども達の教育や自立支援などに活用していただくことで、将来への夢や希望を抱けるようになってほしいと思っています。

ACC21の活動を通じて、子ども達が安心して眠り、栄養のある食事を摂り、笑顔で暮らせるようになることを心から願い、私たちはこれからも応援を続けます。

※2022年度からコープみらいは「子ども・子育て支援基金」を通じてフィリピンの路上の若者たちを支援してくださっています。



黒柳 英哲さま

2013年から賛助会員としてACC21を応援しています。私は2010年にACC21の「アジアNGOリーダー塾」という研修プログラムに参加しました。国際協力分野のリーダーの方々との講義や、アジアの現場訪問など貴重な機会でした。塾での学びやACC21との出会いもあり、2015年にミャンマーに移住し農村部の経済課題解決を目指したビジネスに取り組んでいます。企業として課題解決に取り組む中で、様々なアクターが協働することの大切さを再認識しています。これからもACC21がその経験やネットワークを生かし、他団体や企業も巻き込んで、アジアの人々のために活躍されることを期待しています!



決算報告

2022年度(2022年4月1日～2023年3月31日)

①活動計算書

(単位：円)

科目	金額	小計・合計
I. 一般正味財産増減の部		
【A】経常収益		
1. 受取会費		382,000
正会員受取会費	132,000	
賛助会員受取会費	250,000	
2. 受取寄付金 ^(注)		9,204,225
受取寄付金	9,187,725	
受取寄付金振替額 (日韓みらい若者支援事業)	16,500	
3. 受取助成金等		3,582,573
受取助成金	3,582,573	
4. 事業収益		10,517,146
受託事業収益	10,370,646	
自主事業収益	146,500	
5. 負担金収益		2,113,805
共同事業負担金収益	2,113,805	
6. その他の収益		39,569
経常収益計		25,839,318
【B】経常費用		
1. 事業費		22,650,546
人件費	12,971,043	
その他経費	9,679,503	
2. 管理費		2,417,539
人件費	851,022	
その他経費	1,566,517	
経常費用計		25,068,085
当期経常増減額【A】－【B】…①		771,233
【C】経常外収益		0
【D】経常外費用		0
当期経常外増減額【C】－【D】…②		0
税引前当期一般正味財産増減額 ①＋②…③		771,233
法人税、住民税、事業税…④	70,000	
前期繰越正味財産額…⑤	3,388,263	
次期繰越一般正味財産額 ③－④＋⑤		4,089,496
II. 指定正味財産増減の部		
受取寄付金…⑥		16,500
「アジア若者みらい基金」 (日韓みらい若者支援事業指定寄付)	16,500	
一般正味財産への振替額…⑦		△ 16,500
当期指定正味財産増減額⑥－⑦		0
前期繰越指定正味財産額		0
次期繰越指定正味財産額		0
次期繰越正味財産額		4,089,496

②貸借対照表

(単位：円)

科目	金額	小計・合計
資産の部		
1. 流動資産		9,887,081
現金預金	8,240,356	
未収金	1,567,156	
棚卸資産	79,569	
2. 固定資産		0
有形固定資産		0
無形固定資産		0
投資その他の資産		0
資産合計		9,887,081
負債の部		
1. 流動負債		5,797,585
未払金	1,631,099	
前受金	3,841,577	
預り金	113,909	
未払法人税等	70,000	
未払消費税	141,000	
2. 固定負債		0
負債合計		5,797,585
正味財産の部		
1. 指定正味財産		0
アジア若者みらい基金	16,500	
当期指定正味財産増減額	△ 16,500	
2. 一般正味財産		4,089,496
前期繰越一般正味財産額	3,388,263	
当期一般正味財産増減額	701,233	
正味財産合計		4,089,496
負債及び正味財産合計		9,887,081

より詳しい決算報告書はウェブサイトから
PDF版をダウンロードいただけます。



(注)

p.18の「すっきり寄付」(古本募金を含む)欄に記載した金額(162,988円)のうち、額面金額分を「寄付金」として受領した140,168円と、p.18の「寄付者」欄に記載した金額(9,064,057円)の合計額が、p.19の「活動計算書」内の「受取寄付金」(9,204,225円)です。

p.18の「すっきり寄付」(古本募金を含む)欄に記載した金額(162,988円)のうち、業者を通じて換金した22,820円は、p.19の活動計算書内の「その他の収益」に含まれています。



編集後記

海外出張を先月（2023年9月）から再開しました。約8年ぶりに訪れたフィリピンでは、懐かしいNGOの友人たちと再会を喜び合いました。まず驚いたのが、空港や交通網のIT化、あちらこちらにある巨大なショッピングモール、超高層ビル群、物価の高さ。15～24歳が全人口の約17%（約2千万人）というだけあり、若い人が多く、購買力の強さを感じました。



しかしその一方で、10年以上も路上で寝泊まりしながら「大学に進学したい」というマニラの青年の過酷な毎日、“今夜食べるお米もない”と泣くネグロス島の母娘、貧困家庭の女の子たちが生活する寮で出されている、肉も野菜もない、とても質素な食事。こうしたことを見聞きするのに慣れていたつもりでしたが、目に見える風景と人々の生活実態との乖離、あまりに大きな格差を目の前にして、大きく感情が揺さぶられました（鈴木真里／副代表理事・事務局長）

2023年2月、約3年半ぶりにフィリピン・マニラを訪れました。コロナで渡航できない間に現地の体制が変わったので、今回初めて、現地で事業を担当するメルチャーさんとエフセルさんにお会いしました。オンラインでは毎月会合を持っているのですが、実際に顔を合わせ、路上の若者たちとやりとりする姿を見ることで、充実した話し合いができたことはもちろん、2人の情熱を改めて感じることもできました。また、路上の若者たちと話す中では、コロナ禍でも学びや工夫を重ねながら生計を立ててきたことを伺い、そのたくましさと努力に感じ入りました。引き続き、現地と力と知恵を合わせながら、「ストリートチルドレンZERO」を目指し、活動を発展させていきたいと思っています。



（辻本紀子／ストリートチルドレン事業・広報担当）

ACC21でのお仕事の初年度でした。「日韓みらい若者支援事業」と「日比NGOネットワーク」（JPN）事務局を担当し、学習会等のイベントを通じて、たくさんの方と出会い、学びを得ることができました。これまでのイベント参加者や支援者の皆さまとの連絡を通して情報や学びをいただき感謝しています。



必死に駆け抜けたような気がしますが、「駆け抜けた」と言えば、ACC21で行った冬募金とストリートチルドレンのためのクラウドファンディングで応援ランを行いました。誰かのために走ること、どこかで共に走っている方や応援してくださる方がいることがとても励みになりました。

次年度は、学びと反省点を生かして、よりよい活動ができるよう努めていきます！（シャープ茜／日韓みらい若者支援事業・JPN担当）

私と韓国との出会いは、大学時代に読んだ、韓国併合時代（1910～1945）に神社参拝を拒否して投獄された女性の伝記と来日公演でした。その時初めて、教科書に書かれた歴史ではなく、加害者としての日本を知りました。NPOの案内で韓国を初めて訪問した時、日本軍に生きたまま焼き討ちされた教会の跡地を訪れ、またソウルの教会の長老が美しい日本語で話しかけて来られました。学校ではハングルの使用を禁じられ、日本語のみを使っていたそうです。朝鮮戦争特需、休戦後不要になった戦車が東京タワーの材料になりました。ACC21の働きは、アジアに対する贖罪にもなるのでは、と一人思っています。歴史を繰り返さないために必要なことは？ 為政者と教育。鶏が先か卵が先か。（藤岡順子／経理担当）



インターン・ボランティアを紹介します

私は現在、大学院で「フィリピンのストリートチルドレン一人一人のニーズに合わせた支援方法」について研究しています。4年前に初めて訪れたネグロス島でストリートチルドレンを見かけ、観光地ではないフィリピンの現実を見たことがきっかけでした。フィリピンは海が綺麗な観光地というイメージが強かったため、その裏で多くの子どもが学校に通えず、満足に食事できない状況に疑問を持ちました。このインターンを通して、知識を深め、「ストリートチルドレンZERO」に貢献し、一人でも多くの子どもたちの夢を叶えたいです。（田中望李／インターン）



損害保険会社で営業と商品企画業務に携わり、その後は公益法人で会計や会員管理業務を担当し、2023年3月に定年退職いたしました。「身体能力は衰えを隠せないものの、70歳とはいえ気力はまだ十分。このまま何もせず過ごすのは如何なものか」と思っていたところ、ACC21の活動を知り、不定期ではありますが、活動に参画させていただいております。



NGOの活動に関わるのは初めてですが、これまでの経験を活かし、ACC21の皆様とは別の目線で提案を打ち出していきたいと思っています。（高柳英明／ボランティア）

新しいビジョン・ミッションと2030年までの中長期計画が策定されました。

◎新しいビジョン

人々が温かいつながりのなかで共に生きる、
多様な“コミュニティ”に彩られた世界の実現をめざします。

◎新しいミッション

ACC21は、プロフェッショナルな“コーディネーター集団”として、
様々なリソース（資金、ひと、知識・情報など）を橋渡しすることで、
社会課題に主体的に取り組み、問題を解決できるよう貢献します。

新しいビジョンに込めた思いや、中長期計画については、ACC21のウェブサイトからご覧ください。

<https://www.acc21.org/news2023-2030plan/>



特定非営利活動法人 アジア・コミュニティ・センター 21

団体概要

●所在地

〒113-8642 東京都文京区本駒込 2-12-13 アジア文化会館 1F

●設立

2005年3月（2009年10月法人格取得、2016年3月認定NPO法人となる）

●理事／監事

代表理事 伊藤 道雄（（公財）公益法人協会 評議員）

副代表理事 鈴木 真里（ACC21 事務局長）

理事

有川 凜（（一財）RINDA foundation JAPAN 代表理事）

清水 恭子（（有）CD-BOX 取締役）

長畑 誠（（一社）あいあいネット代表理事、明治大学専門職大学院ガバナンス研究科 教授）

浜田 忠久（（特活）市民コンピュータコミュニケーション研究会 代表理事）

湯本 浩之（宇都宮大学 留学生・国際交流センター 教授）

監事

秋尾 晃正（（公財）民際センター 理事長）

鈴木 英子（鈴木英子税理士事務所 所長）

アドバイザー

太田 達男（（公財）公益法人協会 会長）

ウェブサイト：<https://acc21.org>

電話：03-3945-2615

メール：info@acc21.org

（2023年10月31日現在）

ご寄付のお願い

ACC21の活動は、皆さまからのご寄付や会費によって支えられています。
ACC21へのご寄付・賛助会費は、税制上の優遇措置の対象となります。
遺贈・相続財産へのご寄付についてのご案内資料もご用意しておりますので、お気軽にお問い合わせください。

【ご寄付・会費のお振込み先】

《ゆうちょ銀行》

口座番号：**00160-6-718320**

特非) アジア・コミュニティ・センター21

《みずほ銀行 駒込支店 (559)》

普通口座：**1120451**

特非) アジア・コミュニティ・センター21

※銀行振込の場合は、ご寄付者さまのお名前とご住所をメール (kifu@acc21.org) またはお電話 (03-3945-2615) でお知らせください。



詳しくはこちら。クレジットカード決済もご利用いただけます。

<https://www.acc21.org/donation/kifu/>



すっきり寄付

おうちに眠るものをお金に換えて、フィリピンのストリートチルドレン支援や日韓みらい若者支援をはじめとしたACC21の活動全般に活用させていただきます。

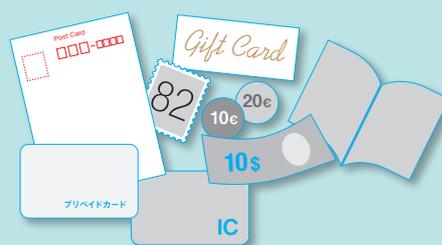
●集めているもの

1. はがき (書き損じ・未使用)
2. 未使用切手 (日本、外国)
3. 使用済み切手 (日本、外国)
4. 外国通貨 (硬貨、紙幣)
5. プリペイドカード (使用済・未使用)
6. トレーディングカード (使用済・未使用)
7. 商品券、株主優待券 (未使用)



●送り先

ACC21 事務所 (下記住所)
すっきり寄付係まで!



ご送付前に、申込用紙または
下記 URL に記載の注意事項をお読みください。

<https://www.acc21.org/donation/sukkifu/>



※一部の物品は、額面分の寄付として受け付けることができるようになりました。詳しくは URL をご覧ください。



認定NPO法人

アジア・コミュニティ・センター21 (ACC21)

Te:03-3945-2615 Fax: 03-3945-2692 Email: info@acc21.org

発行日:2023年10月31日 編集・発行:ACC21

●編集デザイン 有限会社プリントヒル

🌐 URL: <https://acc21.org>

📘 <https://www.facebook.com/acc21.org>

✂ X (旧 Twitter): @ACC21_NGO

📷 Instagram: @acc21_ngo